



NEWSLETTER

THE CENTER FOR JAPANESE STUDIES • UNIVERSITY OF MICHIGAN

所長ごあいさつ

日本研究センターにふたたび新たな年がやってきました。人もプログラムも入れ替わりが見られます。日本研究の修士課程を始め、法学部とのジョイントプログラム、ビジネススクールとのジョイントプログラム、さまざまな学部の博士課程に在籍する学生の方々が日本研究センターのコースに登録しています。以下に新入生をご紹介します。

【日本研究修士課程】

David Azcue、董戈、Hye Jin Kim、Jessica Morton、Margaret Su、和田雄輔の皆さん。

【博士課程】

有賀賢一（政治学）、Jennifer Link（アジア言語文化）、Alexandra Mao（人類学）、Sun Jin Park（経済学）、Si Hyun Ryu（歴史学）、斉藤弘久（社会学）、猿谷弘江（社会学）、の皆さん。

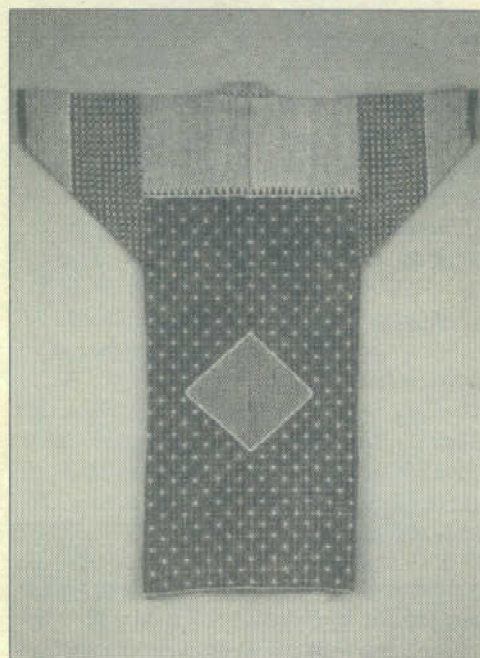
後の学生・卒業生のコーナーに詳しい紹介があります。センターのプログラム、大学のシステム、アン・アーバーの町と、慣れていかなければなりません。きっと実り多い経験をされることでしょう。

大学美術館の東洋美術主任学芸員として新たにマリベス・グレイビルさんが着任しました。ミシガン大学で美術史の博士号を取得ののち、スワスマア・カレッジで美術史を教えられ、今回「里帰り」となられました。グレイビル先生の力強い指導力の下、美術館とセンターとのつながりが強化されることが期待されます。そんな連携の第一歩として、淡路島の「どんざ」特別展が開催されています。詳しくはこの号の記事をご覧ください。

センター事務室では、ブレット・ジョンソンの後任にエイミー・キャリーをプログラムコーディネーターとして迎え

ました。ヌーンレクチャーシリーズを始め、トヨタ招聘客員教授、日本映画シリーズ、学会などのコーディネーションを担当します。前任地はニューヨーク。これまでのプログラムコーディネーターとしての豊かな経験を活かし、様々な方面で多才さを発揮してくれることでしょう。

夏の間センターの仕事をしてくれた経済学部生バイオラ・チェンは、この秋学期以降一年間続けて働いてくれるこ



淡路島のどんざ ミシガン大学美術館展示

とになりました。エイミーとバイオラの二人をどうぞ宜しくお願いします。

さて、新学年度も「ヌーンレクチャーシリーズ」と「フィルムシリーズ」は、これまでどおりの日程で毎週開催します。毎木曜日に開かれる「ヌーンレクチャーシリーズ」は、様々な分野や職業の日本研究者を招いた講演会です。

又『枠組み（フレーム）の中での演技』と題したこの秋学期の「フィルムシリーズ」は、毎回盛況が予想されます。お見逃しなく。夏期フィルムシリーズの『日本、映画、音楽—武満徹の映画について—』も、皆様のおかげで大盛況でした。これら定番プログラムの他にも、第4回「ロバート・ダンリー追悼記念講演会」にはポール・アンダラー教授の講演を予定、またAAS（アジア学会）前会長ピーター・ドウス教授を迎えた日本帝国主義に関する特別シンポジウムも予定されています。

センターではミシガン大学国際研究所の「境界を越えて—地域研究の活性化—」というプロジェクトを母胎とするグローバルワークショップ、「近世とそれ以前における熟練者とノウハウについて」を準備中です。国際研のプロジェクトはフォード財団の資金援助を受けています。このワークショップでは12の大学から様々な分野の研究者を集め、異なる時代や社会で熟練者とそのノウハウがどのように歴史的に構成され、認知され、定義づけられ、権能と権限の中に位置づけられてきたか、を探ります。「植民地主義の権力構造における『にせの』熟練者」「技術的ノウハウと社会的地位」「儀式のノウハウと権限」など、大変興味深い話題が上がっています。詳しくは国際研のウェブサイト (www.umich.edu/~iinet) をご覧下さい。

最後になりますが、これはアン・アーバー近郊在住の方たちへのお知らせです。センターには、新聞・ニュースレター・学術誌・翻訳など、日本関係の出版物が世界各地の研究機関から送られてきます。これらは会議室と入口脇の畳敷きの一角に置いてありますので、いつでもご覧になれます。お気軽にお立ち寄り下さい。

殿村ひとみ
日本研究センター所長

Center for Japanese Studies
University of Michigan
ニュースレター・2001～2002年度

目次

| | |
|-------------|-------|
| 所長より | 1 |
| 出版会から | 2 |
| 図書館便り | 3 |
| 特別記事 | |
| ボブ・モーリー | 3-4 |
| センター催し物 | 4-5 |
| 特別催し物 | 5-6 |
| 教員短信 | 6-7 |
| 学生・卒業生短信 | 7-8 |
| 客員教授短信 | 8 |
| 教員・学生向け奨学金等 | 8-9 |
| 学会 | 9 |
| お知らせ | 9 |
| 2001～02年度 | |
| イベントカレンダー | 10-11 |



出版会から

『世界の中の日本、日本の中の世界—ミシガン大学の日本研究50年史—』(原題 *Japan in the World, the World in Japan: Fifty Years of Japanese Studies at Michigan*) はもうお買い求めでしょうか。センターの歴史を振り返り、卒業生や新旧教員の回想に耳を傾けながら、世界の日本研究の発展にミシガン大学の果たした役割や、戦後の日米関係を考えてみませんか。『世界の中の日本』はセンターと関わったことのある方ならどなたでも楽しめる、内容豊かな本に仕上がっています。

リチャード・ミニアー著『勝者の正義—東京裁判—』(Richard Minar, *Victor's Justice: The Tokyo War Crimes Trial*)、ノーマ・M・フィールド著『源氏物語における憧れの美』(Norma Moore Field, *The Splendor of Longing in the Tale of Genji*) の2冊は再版ができました。モノグラフシリーズではキョウコ・イノウエ著『近代日本思想における個人の尊厳—倫理・教育論に見る「人格」概念の発展—』(Kyoko Inoue, *Individual Dignity in Modern Japanese Thought: The Evolution of the Concept of Jinkaku in Moral and Education Discourse*)、宮家準(みやけひとし)著、H・パイロン・イアハート編・序『修験道—日本民間信仰の構造について—』(Hitoshi Miyake, *Shugendō: Essays on the Structure of Japanese Folk Religion*)、横光利一著、デニス・ワッシュバーン訳『上海』(Yokomitsu Riichi, tr. Dennis Washburn, *Shanghai*)、M・コーディー・フルトン著『泉鏡花』(M. Cody Poulton, *Spirits of Another Sort: The Plays of Izumi Kyoka*) が新刊です。

2001年秋の新刊書には、村上春樹と能の研究書が1冊ずつあります。M・C・ストレッチャー著『羊と踊る—村上春樹の小説におけるアイデンティティーの模索について—』(Matthew Carl Strecher, *Dances with Sheep: The Quest for Identity in the Fiction of Murakami Haruki*) は、村上春樹を扱った英語による最初の本格的な研究書です。世の中に不満を抱く1960年代以降の世代を代弁する村上は、現代日本文学の代表的作家と考えられており、英訳を通してファン層が着実に拡大してきています。本書で著者ストレッチャーは、村上の主人公たちの無気力とノスタルジアに彩られた素朴さが、アイデンティティー・

方向性・意味のすべてを失った現代人の姿に他ならないことを浮彫りにして見せてくれます。近代後期資本主義による人間性喪失や、均質化した市場、日本における実質的な対抗文化の消失に対して、村上の小説は警告を発している、という解釈がなされます。(ISBN 1-929280-07-6、クロス装、\$60.00)

エツコ・テラサキ『願望の形—能における言葉遊び、憑依現象、幻想、狂気、そして服喪—』(Etsuko Terasaki, *Figures of Desire: Wordplay, Spirit Possession, Fantasy, Madness, and Mourning in Japanese Noh Plays*) は古典芸能である能の語り口と「場」の構造を考察したもの。仏教と鎌倉・初期室町時代の社会経済状況が、当時の能に登場する女性像を決定した際に果たした、宗教・思想的役割に着目します。世の中では社会規範が崩壊し、女性のアイデンティティーが細分化ないし分裂(憑依)を起し、狂気に到ったり、奴隷として売られたり、また拷問を受けたり、場合によっては神格化されることもあります。本書では更に、新しく登場した能の中に、時代的に古い民間伝承が文化的・思想的に変貌を遂げて、これまでのものに置き換わるものとして取り込まれた事例も考察しています。

『願望の形』は宗教文化研究、フェミニスト研究、演劇文学、文芸理論に関心のある方にお薦めします。文学・演劇・宗教の分野の学生と教員、学際研究・人文科学系分野の方、そして能に興味のある一般読者を対象にした本です。(ISBN 1-929280-08-4、クロス装、\$60.00)

上記出版物のご注文は、

University of Michigan Press
839 Greene St.
P.O. Box 1104
Ann Arbor, MI 48106-1104
tel: 734-764-4392, fax: 734-936-0456
email: um.press.bus@umich.edu

3月1日以降は、

Publication Program
Center for Japanese Studies
University of Michigan
202 S. Thayer St.
Ann Arbor, MI 48104-1608
tel: 734-998-7265, fax: 734-998-7982
email: bew@umich.edu
rmory@umich.edu

までどうぞ。CJS 出版会の刊行物は、すべて簡単な紹介文をCJS のホームページ

で読むことができます。“Publications”をクリックするか、ミシガン大学出版会のホームページ、<http://www.press.umich.edu>をご覧ください。

ブルース・ウィロビー

総編集長
CJS 出版会

図書館司書より

アジア図書館の日本関係スタッフに、この秋から新たに竹内康治さんが加わりました。竹内さんはこれまで、世界76カ国にわたる39,000館以上の図書館や研究機関で構成された非営利・会員制のライブラリーサービス機関OCLC (Online Computer Library Center) で、日本語文献の分類専門官をしてこられました。竹内さんに加わっていただいたおかげでアジア図書館の日本コレクションのスタッフが全員揃いました。残りのスタッフはカスコ・アンターソン（日本語文献新規購入）、鈴木まり（日本語文献分類専門官補佐）、そして私です。

昨秋、全米図書館日本文献協議会 (NCC) の複数巻セット蒐集プロジェクト (2000～2001年度) に対し、資金申請をしたところ、幸運にも購入希望として出した4つがすべて認められました。この申請には、教員の方から煩雑な書類を準備する上で協力して頂く必要がありましたが、殿村先生が引き受けて下さり、見事にその役目を果たされました。協議会が本年度、全米で購入を許可した図書は合計16タイトルです。そのうち本学アジア図書館が4つを獲得したことは、全米で有数の日本語文献所蔵図書館として、再度認められたことに他なりません。収蔵することになったのは、

- 『諸家系図資料集』36 リール
- 『御番方代々記』52 リール
- 『公民教育』22 リール
- 『京都美術協会雑誌』16 リール

です。既に分類が終了し、書架に載っています。

もう一つ、新規購入図書として特筆すべきは、雑誌『太陽』(明治28年～昭和3年、531冊)のCD-ROM版、全77枚です。これはデータベース形式になっていますので、著者名・記事名をはじめ、

色々な方法で検索ができます。この他にも、『日本錦絵新聞集成』『文書館学文献目録』を購入しました。間もなく入手するものに『現代日本文学全集総覧』、雑誌『大分』、『日清戦史第II期』(明治27年)などがあります。

新たに加わった複数巻のモノグラフィシリーズとしては、

- 『優生運動』全10巻
- 『漱石雑誌小説復刻全集』全5巻
- 『移民地事情』全10巻
- 『家族研究論文資料集成』全28巻
- 『日本人物情報大系』全100巻
- 『桜井満著作集』全10巻
- 『三上次男著作集』全6巻
- 『イエズス会日本コレジヨの講義要綱』全3巻

をはじめ、多数あります。

何でもご質問がありましたら、日本コレクションの者に気軽にお声をおかけ下さい。スタッフも揃いましたので、今後はサービスの向上に力を入れたいと思います。

アジア図書館日本コレクション主任
仁木賢司

特別記事

ロバート・モーリー
CJS 出版会副編集長

ミシガン大学の研究プロジェクトとしては最も息の長い、『中世英語辞典 (Middle English Dictionary, MED)』の編纂事業が完了し、去る5月、CJS 出版会の副編集長ボブ・モーリーさんは、その祝賀会に出席しました。モーリーさんは生涯の10年間をこの仕事にかけたこととなります。ミシガン大学で英語の歴史言語学の博士号を取得したご本人の経歴からすれば、うってつけの仕事と言えますが、同氏がそこまで到り、更に続いて日本研究センターで仕事をすることに到った軌跡には、紆余曲折がありました。

モーリーさんはペンシルバニア州北西部の田舎町で育ちました。1961年アクロン大学に入学。4年後には最優秀生として同校を卒業します。専攻は英語英文学、副専攻は数学とスペイン語でした。すぐ続いて同じく英語英文学専攻で同校の修士課程に進み、67年に卒業。卒業と同時にウエストバージニア州アセンズへ移り、コ

ンコードカレッジで1年生と2年生の英語と英語の補習クラスを2年間担当します。

2年の教職ののち、モーリーさんは学問研究を目指すことに決め、今度はミシガン大学に入ります。ミシガン大在学中には、講師として、論文の書き方・英文学・言語学のコースを学部の全レベルで受け持ちました。ドイツのマインツ大学へも1年間、フルブライト交換留学生として行きます。やがて医学史に関心を抱くようになり、それが元で『中世英語による解剖学』と題した博士論文を書くこととなります。この論文はそれまで出版されることのなかった15世紀の解剖学の教科書の完全版で、言語学的・科学的観点から資料価値の高い研究でした。科学用語や医学用語の最初の使用例が相当数見られます。モーリーさんは科学を専攻したわけではなかったため、「人様から随分教わった」と言います。特に医師であった兄から学んだことが多かったようです。

1974年に大学院を終え、ペンシルバニア州レークシティの企業でテクニカルライターとして職を得ます。そこでは、同社の製品である発電用特殊機器の取扱説明書を書きます。この仕事のおかげでモーリーさんは、同社の機器を熟知するまでになり、故障した際には修理要員として派遣されるほどになりました。数学を学んでいたおかげで機械の仕組みは比較的簡単に理解でき、この仕事から多くを学んだと言います。

1977年、モーリーさんはペンシルバニア州エリー市にあるアメリカン・ステリライザー社に引き抜かれます。そこで電子式殺菌装置、手術台、ライトなどの医療用機器の取扱説明書や保全マニュアルを書きますが、それには医学の知識が役に立ちました。

1981年、世界はエネルギー危機のさ中、モーリーさんはテキサス州ヒューストンにあるエクソン社の掘削・試掘研究所でテクニカルライティングの仕事に就きます。当時エクソンは、博士号所有者を2,000人以上擁する世界最大の企業でした。モーリーさんは地球科学を始め、自然科学一般・工学系のほとんどの分野の研究報告書やマニュアルを編集し、製作の指揮を取りました。「仕事は楽しかった」のですが、その5年後、世間でオイルショックは忘れられてしまいます。これによりモーリーさんのいた部署は大打撃を受け、「閉鎖に追い込まれた」と言

います。エクソンの利益は減少し、社員の25%が職を失いました。

しかし運命の悪戯でしょうか、ちょうど石油業界が下降線をたどり始めるころ、モーリーさんの所へ母校のミシガン大学から一通の手紙が届きます。そこにはミシガン大学がモーリーさんの博士論文を、1930年以来続いている『中世英語辞典』編纂作業の参考にしていることが記されており、その仕事に編集者として参加しないか、という誘いが書かれていました。独自の研究が出来る希有な機会に見え、モーリーさんはこれに惹かれます。そしてこの仕事を受けることにし、86年、アン・アーバーに戻りました。

その後の10年間を『辞典』の編纂に費やすこととなりますが、その理由は「言葉への愛着。6世紀にもわたる文書を読んだときの歴史と対面しているという実感。論理的繋がりや構造を持った定義を書くという創造的行為に伴うやり甲斐」だと言います。10年間に昇進も数回あり、副編集長と図書館長という肩書きにまで昇りました。

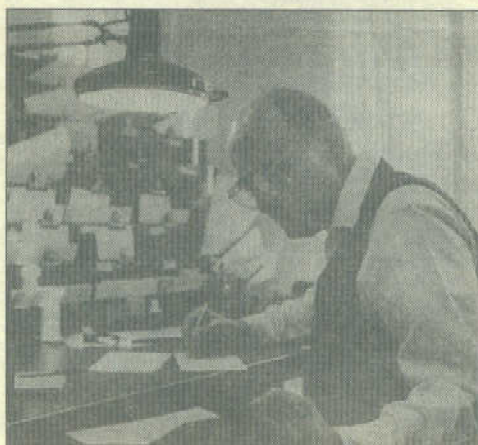
辞書編纂には常時15~20人が携わっていますが、通算では数百人に上ります。『中世英語辞典』の目指すところは7万語の定義であり、計71年の歳月を要する大事業でした。5月に完成したこの『中世英語辞典』は、英語史上甚大な変化の起こった西暦1100~1500年の間の英語に関する、最も総合的な記録です。

一つ一つの単語の定義をするために、スタッフは単語の実際の使用例を集めたメモから手をつける必要がありました。最終的に用いられたメモは300万枚。スタッフの中には、メモのコピーとファイルの仕事専用に雇われた人もいました。最初の100万枚は『オックスフォード英語辞典』のスタッフから寄贈されたものです。ミシガン大学は、貴重な用例集を受け取るために、実際に担当者を英国へ派遣したほどです。代表的な用例を最大限集めた後で、帰納法を用いて定義が書き起こされました。この用例は、実例として辞書にも記載してあります。『オックスフォード英語辞典』編集スタッフと同じやり方で編纂した、この『中世英語辞典』は、モーリーさんに言わせると「歴史的原則に則った最高の辞書」になりました。

71年間に及ぶ編纂の仕事には相当の資金が必要でしたが、それを今日の金額に直

すと1億ドルを超すとモーリーさんは言います。最初の50年間の資金調達は最低路線、うち大半は大学が出資しました。最後の数年間はメロン財団と全米人文科学基金の資金援助により完成にこぎ着けました。

全13巻の『中世英語辞典』は、現在ミシガン大学出版会が印刷中です。市販価格は\$3,000前後の予定。辞書編纂に関する詳しい資料展示がGraduate Libraryの6階にあります。



『中世英語辞典』編纂作業中のボブ・モーリーさん

『中世英語辞典』スタッフとして働くうちに、モーリーさんは肝臓病を患います。長期間の検査の結果、生存の望みは肝臓移植以外にないことが判明。1992年7月23日、執刀医ダレル・キャンベル教授の下で移植手術を受けます。手術は成功でした。肝臓提供者の家族にはその知らせが行き、その後数年間、モーリーさんはその家族と連絡を取り合い、提供者のことで、その家族のことで知るようになります。提供者の家族にとっても、肉親を失った悲しみの反面、それで人の命を救えたことが慰めとなりました。

移植した肝臓を肉体が受け入れ、しだいに活力が戻ってくると、やがてモーリーさんは『中世英語辞典』編纂の仕事に復帰します。そして1996年に辞書本文の編纂が大方完了するまでの間、同じ職にありました。96年、そろそろ潮時と思い、新しい職を求めて面接を多数受けます。このモーリーさんを雇ったのは、日本研究センターでした。センターに来て、従来型の編纂の仕事に戻ったこととなります。

中世英語研究から日本研究へという転身は、人によっては随分大胆な、と思うかも知れません。しかし、モーリーさんは、文学研究者としての経験があったため、編集の方法には慣れていて、と言います。(実ほどの分野でも方法的には大差ない、というのが持論。)あらゆる背景を持つ人が編集者になっている、とも。例えば、中国研究センター出版会のテリー・フィッシャーは中国語の修士を持っていますが、日本研究センター出版会のブルース・ウィロビーは古代近東学と聖書学の博士候補資格を取得しています。「歴史言語学から見た中世英語学」という博士号も、言語研究へ、ひいては編集へとつながる、とモーリーさんは言います。

ミシガン大学日本研究センター出版会は1950年に設立されました。世界の日本研究者による研究書を出版しています。出版物には3種類のシリーズもの(ミシガン「日本研究モノグラフシリーズ」、ミシガン「日本研究論文集」、ミシガン「日本研究における古典シリーズ」と、シリーズ外の単行本があります。ここでの4年間の間に、モーリーさんは日本の民間信仰から泉鏡花の戯曲、日本の地方政治にいたるまで、幅広い内容の出版物を編集してきました。現在は、由紀・ジョンソンによる日本語のモダリティーに関する研究書を編集中です。

また、医学史についての論文を現在でも書いています。これまで多くの論文を書くにあたって、同僚にして師、そして友人でもあったのは、ミシガン大学医学部泌尿器科教授で副学部長でもあるデビッド・A・ブルーム教授です。ブルーム教授は医学史に深い関心と理解を寄せ、自ら多数の論文を発表しています。「蛭と医者—医療用蛭の生物学、語源学、そして医療用途について—」「拡張と拡張症—その小史—」は二人の共同研究です。モーリーさんの論文は、英語学の専門学術誌にも、医学誌にも掲載されています。

センター催し物

トヨタ招聘客員教授
(TVP)

新しいトヨタ招聘客員教授になったジョーダン・サンド教授の



ジョーダン・サンド教授

レセプションが9月27日午後4時から、ソーシャルワーク学部ビル3階、3603号室の前で開催されました。日本に関心を持つ人々がサンド教授を囲んで親睦を持つよい機会となりました。

ジョージタウン大学で日本史と日本文化の教鞭を執るサンド教授は、2002年4月までアン・アーバーに滞在し、2つクラスを持ちます。学部生向けの5週間のミニコース、「日本建築と空間の歴史的考察」と、大学院生向けの「物質的文化と視覚的文化から見た明治時代」です。同教授は建築史で東京大学から修士号、歴史学でコロンビア大学から博士号を取得しています。主要研究テーマは、日本の近代化の経験、都会の生活様式、住環境、物質的側面が特に関心の対象です。

来年度のトヨタ招聘客員教授も既に決まっています。2002年秋学期には、蒲島郁夫氏（東京大学法学部教授）、2003年冬学期には角田由起子氏（立教大学法学部教授）が教壇に立つことになっています。

秋学期フィルムシリーズ

枠組み（フレーム）の中での演技

自らの理想のために伝統に屈することを拒み、それによって他と一線を画す、すぐれた映画監督たちがいます。これまでセンターでは、そうした監督を取り上げ、その業績を紹介してきました。しかし、この秋はいつもと趣向を変え、世の期待に沿う作品、いわゆる「枠組み」（フレーム）の中で映画制作を続けた監督を取り上げます。往々にしてこの「枠組み」とは、誰もが知っている「ジャンル」であり、そこでは汎用コードを散りばめながらそれを起爆装置としても使っています。他に政治的な「枠組み」もあり、映画制作者は表現の許容範囲を創造的に押し広げつつ、当局による検閲ときわどい一線で向き合います。「枠組み」はスクリーン、すなわち映画監督がフィルムという形式をいろいろ試してみるキャンバスでもあります。このどれにしても、映画監督は、我々に見慣れたものを見せて映画に引き入れ、普段と同じ期待を高めておいて、突然何か違うことをして日常感覚の平衡をぐらつかせます。今回のシリーズでは、大島渚『御法度』、鈴木清順『東京流れ者』、北野武『その男、凶暴につき』を始め、1935年から1999年までの映画を取り上げます。イベントカ

レンダーで全上映作品をご確認ください。10月5日を皮切りに、毎金曜夜7時から、ローチホール・オーデトリウムで上映されます。入場料無料。映画はすべて日本語で英語字幕付。センターより国際交流基金に対し、映画上映のご支援を頂きましたことにお礼を申し上げます。

ヌーンレクチャーシリーズ

この秋のヌーンレクチャーシリーズは、第1回目の9月27日（木）、石田浩氏（社会学、東京大学）による「世代間の再生産か？—日本における社会移動—」から始まりました。講演者には他に、駱明正（カリフォルニア大学デービス校）、白波瀬佐和子（国立社会保障・人口問題研究所）、ハンク・グラスマン（仏教研究所）、伊藤誠（在デトロイト日本国総領事）、ウィリアム・フィッツヒュー（スミスソニアン博物館）、タカシ・フジタニ（カリフォルニア大学サンディエゴ校）、シェリー・ファウラー（カンザス大学）の各氏を予定しています。内容は社会学から歴史、美術まで多岐に渡ります。講演は全て無料。毎週木曜日、正午～午後1時まで、ソーシャルワークビル1636号室で行われます。簡単な飲み物とスナックが用意されます。詳しくは最終頁のカレンダーをご覧ください。このシリーズは一部、教育省タイトルVI助成金により実現しています。

ロバート・L・タンリー追悼記念講演・レセプション

1月25日、コロンビア大学東アジア言語文化学部教授のポール・アンタラー氏（1971年ミシガン大卒）による「リアリズムを超えて—フィクション・映画・『近代日本』—」と題した講演が行われます。川端康成脚本の映画『狂った一頁』、芥川龍之介『歯車』をとりあげ、近代日本文学における「近代」のエッセンスとしてのリアリズムのあり方を考えます。

ピーター・ドウスを迎えて パネルディスカッション

11月2日午後3時から、帝国主義と中産階級を考えるパネルディスカッションが、ミシガンリーグ2階のミシガンルームで、開かれました（入場料無料）。パネルには特別ゲストとして、アジア学会（AAS）会長の任期を終えたばかりのピー

ター・ドウス氏（スタンフォード大学ウィリアム・H・ボンソール記念歴史学教授兼フーパー研究所シニアフェロー）を迎え、「市役所における死—明治後期の都市政治—」と題した講演が行われました。パネリストとしては、他にケン・イトワ（準教授、日本文学）、レスリー・ピンカス（準教授、歴史学）、ジョーダン・サンド（トヨタ招聘客員教授）が参加しました。ディスカッションに続いてレセプションがありました。

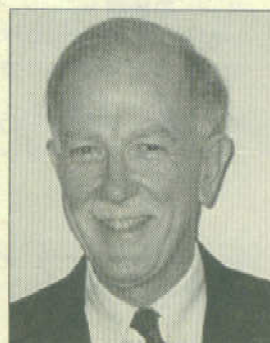
特別催し物

ミシガン大学美術館（UMMA）主催『淡路島のどんざ展』

2001年10月13日～
2002年1月6日

『淡路島のどんざ展』では日本の民間における織物の伝統という、ほとんど知られていない分野を取り上げます。瀬戸内海の淡路島に伝わる、かつての漁民の作業着「どんざ」が22着展示されています。これら藍染めの上着は、波縫い・千鳥掛け・刺し子を巧みに組み合わせ、作業着に過ぎなかったものが、優れたデザインと職人技の領域にまで達した物です。「刺し子」とは、布地を縫い合わせる小さな縫い目のことで、衣服を長持ちさせるための実用目的で用いられました。布を何枚も重ねて補強することで強度と保温性が上がりました。自然と、一番摩耗の激しいところに最も密な刺し子が見られます。更に、刺し子の縫い方には厄除けの意味がありました。屋根もない舟の上では、獲物の量と天候によって運命が大きく左右されたため、厄除けは大切な役目を担っていました。

「刺し子のどんざ」は19世紀後半から20世紀前半にかけて作られたものが多く、漁村の主婦の手によって、物によっては数ヶ月もかけて作られました。漁村内外での漁師の社会的地位に比例して、より技巧を凝らした趣向が見られます。20世紀に入ってエンジン搭載船が登場し、洋服がこうした漁村にも広まるにつれて、



Peter Duus

ピーター・ドウス教授

この上着は漁業の現場では非実用的と考えられるようになり、祭儀や特別の場でのみ着用されるようになります。

今回の展示と展示品のカタログは、UCLA ファウラー文化史美術館（ロサンジェルス）とカリフォルニア大学サンタバーバラ校美術館により制作されました。アン・アーバー展示は以前からの計画でしたが、この度、新たにマリベス・グレイビルを東洋美術主任学芸員として迎えて、より一層充実した展示になりました。

アン・アーバーでの展示は、日本研究センター、美術館友の会、ドーリス・スローン記念基金、キャサリン・タック拡充基金により可能になりました。

キャロル・マクナマラ
副館長（コレクション・展示）

教員短信

麻生久美子（日本語講師） ミシガン大を離れ、コロンビア大学教育学部の大学院生をしています。

ジョン・キャンベル、ルース・キャンベル 二人で2000～2001年度を日本で過ごしました。ジョン（政治学）は京都日本研究センターで客員教授兼所長代理を務めました。このセンター(KCJS)は、ミシガン大を含めた米国の13大学の3年生向け留学センター。ジョンが2コースを教え、ルースは日本の老人問題に関するゼミを受け持ちました。ジョンは更に同志社大学法学部大学院で、特別客員教授として日本の社会政策のクラスも担当しました。また、夫妻とも日本で新たに義務化された公的長期介護保険に関する調査を行いました。ルースは関西地区のケア担当者を調査し、日本全国の老人介護のさまざまな側面を取り上げた講演を行いました。講演依頼の多くは、ミシガン大学病院老人医療センター主催「チームケア」研修会（日本の医療関係者向けに開催）の参加者からのもの。同研修会には、これまでに200人余りが参加しています。ジョンも、国の政策という観点から、これまでに引き続いてこのプログラムに参加し、長期介護保険をテーマにしたシンポジウムにも参加しまし

た。長期介護保険の実施1周年を祝う、厚生労働省主催の会議にも基調パネルの一人として参加。7月には度々共同で研究発表を行っている池上直樹氏と、カナダで長期介護一般に関する話をし、更に日本でも「保健政策に関する4カ国会議」に出席しました。

趙 恩秀（韓国語・韓国文化教授、アジア言語文化） カリフォルニア大学パークレー校韓国研究所からポスドク奨学金を獲得しました。2001～2002年度の研修期間は、韓国仏教における重要な思想家、著述家、注釈書の著者であり、僧侶でもあった元曉（617-686）の研究を本にまとめる予定。本のタイトルは『仏教伝統の形成—元曉と韓国仏教のアイデンティティ—』（仮題）です。同研究に関して、趙氏は韓国財団出版援助金を獲得しています。更に日本研究センターから、元曉が日本仏教に与えた影響の研究に対し、教員研究補助金が与えられました。日本仏教の発達に元曉の教えが及ぼした影響と、それによる貢献を分析するこの研究は、彼女の研究書に掲載されています。最近2週間日本を旅して、関連のある文書を集めて来ました。東京大学図書館と東洋文庫を訪ね、高山寺と東大寺の古文書館にも足を運びました。更に、元曉とその二人の朋友、義湘と善妙にゆかりのある史跡も訪ねて、写真の記録を撮って来ました。

ヘンリー・エム（アジア言語文化） 「植民地主義と国粋主義の狭間で—朝鮮における権力と主観—」と題する国際会議を企画運営しました。一部CJS補助金でまかなわれたこの学会は、1930年代の日本の植民地主義と朝鮮の国粋主義との間に存在する類似性と相互作用を考察する他、日本の植民地主義と1945年以降の米ソ軍事介入との間に、また植民地的近代と1945年以降の朝鮮における国民国家建設の努力との間に見る、類似性と相互作用を考察するもの。5月4日～6日に亘り、ミシガン大学国際研究所で、26名の研究者が参加して行われました。エム氏はこの学会における発表論文を選択・編集して学会紀要としてまとめ、それにより20世紀東アジアにおける、植民地主義と国粋主義のイデオロギーとその実践に、より批判的な考察が加えられることを期待しています。

マリベス・グレイビル（日本美術、美術館） 東洋美術主任学芸員として大学美

術館のスタッフに加わりました。前職はスワスモア大学アジア研究学科教授兼学科長。8月から美術館で現職に。東洋美術（日本・中国・南アジア・東南アジア）のコレクションと展示の指揮監督のみならず、米国では数少ない東洋美術品専門の修復室の管理運営も行います。2000年度冬学期にはミシガン大美術史学部で客員教授として教えたばかりで、修士号と博士号も同学部から取得しています。これまでも東洋美術に関する重要な展示を手がけており、コロンビア大学C・V・スター東アジア図書館で開催した「規律と優美さの時代—京都皇室仏教寺院の宝物から—」（1988）はその一つ。日本語に堪能で、これまで研究者向けにも美術館の一般客向けにも、幅広いトピックで講演をして来ました。今秋は貸出展示の『淡路島のどんご展』に伴い、一般来館者向けの様々な催し物を企画運営するとともに、東洋美術ギャラリーの常設展示品の入れ替えを行います。

犬塚定志（美術） 準教授に昇任し、終身在職権（テニユア）が認められました。去る3月には全米陶芸教育審議会年次総会で現代日本陶芸に関する講演を行いました。今秋はデンマークのGrimmerhaus Keramick 博物館とテネシー技術大学アラチアンクラフトセンターで自作の展示を行い、SUNY New Paltz に客員アーティストとして招かれています。自作が最近刊行のスーザン・ピーターソン編著『現代の陶芸』（Watson-Guptill）とロビン・ホッパー編著『陶芸、その全形態』『陶芸家のための土と釉薬』（Kraus Publications）に収録されています。クラスで教えるほかに、デトロイト地区の視覚障害を持つ子供たちに、陶土のワークショップを継続的に開いています。

ケン・イトワ（日本文学） 今年度は研究休暇を取り、19世紀末から20世紀初頭にかけての家族の表象を題材に本を執筆中。明治時代の小説が「家」という国家的イデオロギーに対し、いかに両義的立場で接していたか、を解明します。

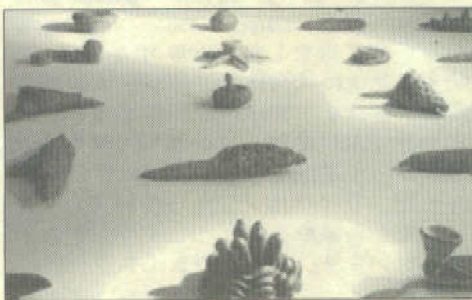
由紀・ジョンソン（日本語言語学） ミシガン大を離れ、カナダのブリティッシュコロンビア大学アジア研究学部の日本語プログラム主任になりました。

ウィリアム・P・マーム（民族音楽学） 8月25日にヘンリー・ルース研究奨励金プログラムにて講演。10月27日にはデ

トロイトで開催された民族音楽学会の年次総会で基調講演をしました。

マークス・ノーネス (映画・ビデオ研究、アジア言語文化) 3月にカリフォルニア大学パークレー校で開催された学際的シンポジウムに参加。「二大戦間の日本における文化とファシズム」と題したこのシンポジウムには、多数の分野から専門家が出席しました。「映画のスタイルとファシスト的精神状況」について発表。

エスペランザ・ラミレス・クリステンセン (アジア言語文化) 4月20日に「『源氏は私』— 中世の和歌伝授法にお



Nature of Things

ける共同主観の形成について—」をハーバード大学ライシャワー研究所で講演。7月には室町時代の連歌師、宗祇の500年忌と、連歌研究者金子金次郎の3周年忌にちなんで国際シンポジウムに海外の連歌学者代表として出席するため、広島大学へ、「テキストの沈黙を訳すこと— 間、言葉、そして連歌—」と題する講演をしました。レベッカ・コーブランドとの共編『父と娘の筋書き— 日本文学における女性と、父親のおきて—』がハワイ大学出版会から2001年秋出版の予定です。自著になる「前書き」と、論文「平安女流日記文学における自己表出と父権について」が掲載されています。秋学期は研究休暇を取り、仏教哲学の無と中世日本美学に関する執筆を進める予定。

ドナルド・リッチー (『ジャパントイムス』コラムニスト、前トヨタ招聘客員教授) 日本に関する論考をまとめた『ドナルド・リッチー選集』を出版しました。

ジェニファー・ロバートソン 4月に自著『宝塚— 近代日本の性を巡る権謀術策と大衆文化について—』(カリフォルニア大学出版会) が第3刷を迎えまし

た。学内の全学研究奨励部と、教養学部 (LS&A)、「生命科学・価値・社会」プログラムからそれぞれ研究奨励金も獲得しています。この奨学金の対象となったのは、日本とイスラエルの「血」のイデオロギーです。更に国際交流基金からも助成金を獲得し、2002年1月~4月まで東京大学とタイアップして日本における優生運動を研究します。2001年秋学期はジョンズホプキンス大学で、2002年の5月~7月はテルアビブ大学に特別客員教授として招かれています。更に論文発表に精力的で、新たに編集の仕事も始めました。『日本人類学ハンドブック』(自ら執筆を依頼して集め、編集した論文30編)と、『同性文化とセクシュアリティ— 人類学論文選集—』(現地調査を主とした人類学の、4つの方法論的観点から同性のセクシュアリティを考察した、発表済論文18編を選んだもの)を編集しました。また自らの企画で1999年に創刊された『コロニアリズム』(カリフォルニア大学出版会)の編集責任者でもあります。これは、主に19~21世紀の、西洋諸国以外における植民地主義と帝国主義の、歴史・文化・実践を扱った叢書です。シリーズの第1巻がこの年末から新年にかけて出版になります。

ロバート・シャーフ (仏教学)、エリザベス・シャーフ (CJS 修士課程学務アドバイザー) 『生ける肖像— 寺院文脈における日本の仏教イコン—』が出版になりました。歴史・制度・儀式の観点から見た、日本の仏教美術における絵画・彫刻・書・遺物を考察した論文を集めたものです。

高原威 (美術) 夏を京都精華大学で過ごしました。今年でミシガン大学美術デザイン学部と京都精華大との夏期交換プログラムの10年目になりますが、その最初から関わってきました。今年14人のミシガン大生が日本へ行き、3週間に亘って版画、紙漉、陶芸の実習を行いました。最後には作品のグループ展示が行われました。

寺尾るみ (日本語講師) アリゾナ大の博士資格候補生 (日本語社会言語学) になりました。今年もミシガンで教えます。

殿村ひとみ (歴史学、アジア言語文化) 多忙な中、日本研究センター長に復帰しました。2000年11月、「濫用と偏見、過去と現在— 歴史学は変わり得るか—」

をテーマにした「日米歴史学者円卓会議 (国際日本研究センターとハワイ大学後援) に出席。7月には日本へ行き、「前近代日本の史料遺産プロジェクト— 第2回中世日本の史的・仏教的文献に関するシンポジウム」(東京大学史料編纂所後援)で講演。8月にはベルリンで開かれた「アジア研究者のための国際会議2」でパネルを組み、論文を発表しました。そして10月にはフォード財団の『境界を越えて— 地域研究の活性化—』プログラムの一環として、ミシガン大学国際研究所のもとで、「近世とそれ以前における熟練者とノウハウについて」と題するワークショップを企画運営しました。

学生・卒業生短信

修士課程の新生をご紹介します。

David Azcue 法学部とCJSの修士のジョイントプログラム。日本と朝鮮、法律、人権、知的財産などの関係を研究したい。

董戈 比較文化、東アジア哲学、思想史に関心あり。

Hye Jin Kim 日韓関係を学びたい。

Jessica Morton 日本の法律、女性学、仏教に関心あり。とりわけ日本の宗教領域における法制度の役割を調べたい。

Margaret Su スワスモア大学で経済を専攻し、3年と4年の夏を日本で過ごした。国際ビジネスを学び、いずれはアジア系移民の力になりたい。

和田雄輔 日本美術史と日本の哲学を学びたい。

以下は、日本に関連のある研究を行う予定の大学院生です。

有賢賢一 (政治学)、Jennifer Link (アジア言語文化)、Alexandra Mao (人類学)、Sun Jin Park (経済学)、Si Hyun Ryu (歴史学)、斎藤弘久 (社会学)、猿谷弘江 (社会学)

Doug Beasley (卒業生) 写真集『日本— ある二世の初体験—』を出版しました。「ジェローム基金アーティスト旅費助成金」で日本に行った時に撮った写真の集成。この企画は1992年のCJS研究助

成金により始まったものです。

Tony & Caryn Bromirski 2001年6月17日に第二子誕生。アレグザンダー・フォックスと命名。体重は9ポンド15オンスありました。

Heather Hopkins Clement 南カリフォルニアの陽光の中で多忙な毎日を送っています。リトル東京サービスセンターで週一回、毎年開かれる「豆腐祭り」(www.tofufest.org) 準備のボランティアをしています。更に、日米協会でもウェブサイト作製の仕事でボランティア中。南カリフォルニアの日米協会では、黒沢明監督の全作品を復元するプロジェクトが始まりました。

Ann Messerly Copper-Chen (1979年CJS修士課程卒業) 名古屋近郊の中部大学で三浦幸平記念客員教授として教えました。女性としても、コミュニケーション論教授としても、この職に就いたのは、自分が一人目です。オハイオ州立大学でこれまで何度も教壇に立ち、著書に『日本のマスコミ』(アイオワ州立大学出版会、1997年)があります。

Richard Tabor Green 夫人の律子さんと、これまでの6年間、共に関西学院大学で教鞭を取りました。「創造性システム論」「国際経営学」「人工生命コンピュータ論」を担当。最近、博士課程の学生と共にベンチャービジネスとして、日本創造性開発グループを創設。創造性に関し、内容・範囲共に世界最大規模のアンケートを開発しました。このアンケートは、中国、韓国、シンガポールでも用いられる予定。

Glenn Hoetker 博士号を取得し、現在イリノイ大学ビジネススクールで、戦略論の助教授。

Jenny Koenig これまで数年間、ルーテル派ミズーリ教会(LCMS)の奉仕活動の一翼である、ボランティア青年部の事務局長として日本で仕事をし、ほぼ10年間に亘る日本滞在から帰国しました。今後はLCMSの宣教活動コミュニケーション部の責任者として働きます。学部時代に専攻したジャーナリズムと、CJSの修士、そして海外経験を活用できる職場です。

Richard Sysma 日本在住32年ののち、ミシガンに戻りました。カルビン神学校

で学生事務部長兼留学生アドバイザーに着任しました。

客員教授短信

Sidney Brown (オクラホマ大学名誉教授) 2001~2002年度歴史学部客員教授。近世以前と近世以降の東アジア史概論、日本に関する上級コース、戦後日本に関する初年度のゼミを担当します。

Frank Chance 2001~2002年度美術史学部客員教授。近世日本における旅の階級的意味が主な研究対象です。具体的には東海道を旅して旅景色を描いた、著名な画家を取り上げます。とりわけ旅の様相と描画が、谷文晁のような侍と、広重や北斎のような町人版画家とでどのように違うかを掘り下げる予定。

Linda Chance (ペンシルバニア大学) 2001~2002年度アジア言語文化学部客員教授。「日本の恋と死」(アジア研究300)と題するコースと、日本の文芸随筆の伝統に関する大学院ゼミを担当の予定。日本文学における随筆と女性らしさが研究テーマです。

韓 栄恵 (韓国ハンシン大学準教授、社会科学部国際問題研究科) 2001年7月~2002年8月まで客員研究員。筑波大で博士号を取得。現代日本における地域の草根社会運動を研究中です。特に国家と市民社会、中央政府と地方自治体、男性と女性といった、諸々の関係に生じている変化に注目しています。ポスト工業化社会・ポストモダン状況への移行の中で、新たな構造関係が出現してきています。その中で一般市民が新たな社会的・政治的勢力として力を持つようになる過程を調査中です。また、西洋の社会思想や概念が日本と韓国にそれぞれ取り入れられた後、変貌を遂げる過程を、歴史的に比較対照する研究も行いました。これは東アジアにおける近代的な概念や知識の形成に伴う、近代化の一側面という観点で取り上げたもの。

石田 浩 (東京大学社会学部教授) 2001年8月~2002年3月までキャンパスに滞在予定。社会科学研究所調査リサーチセンターに籍を置きます。計量的方法論プログラムの一員として大規模な調査を行い、世代間の移動のパターンを調

べる予定。また、社会的地位の世襲や、社会的移動と教育の関係も研究テーマです。対象は主に日本ですが、国際的視点から日米欧の比較もする予定です。

北村和也 (名古屋大) 「日本人のための家庭医学プログラム」の交換プログラムでミシガンへ。(このプログラムは、日本に存在しない「家庭医学」という概念を客員研究員に対して紹介し、各研究員が日本の所属大学へ戻ってから、家庭医学科を創設してもらうことを、目標の一つに掲げています。) 研修医と共に回診したり、教授法を学びながら、自分の研究をする日々を送っています。名古屋大との提携は今年が3年目。9月20日にはミシガン大から3人の医学部関係者が名古屋へ行き、講演、フォーラムの参加などをして来ました。1999年からは、長崎大、北大、大分医大、川崎医大、名古屋大、聖マリアンナ医大の医学生もこのプログラムに参加しています。学生は、通常2~3週間滞在し、同プログラムの佐野潔、マイケル・フェッターズの二人の医師から家庭医学について学ぶことになっています。プログラムのスタッフは総勢6人。このプログラムにやって来る患者の数は、今では月400人に昇り、その95%が日本人となっています。

白波瀬佐和子 (国立社会保障・人口問題研究所) 今日の日本とアメリカの、働く母親を支える家族政策を調査するため滞在。両国の家庭政策によって、女性の仕事の選択や、家事と仕事を両立させる方法に、どんな影響が出るかを分析します。特に、育児休暇等が日米の女性のキャリアに及ぼす影響を、パネル調査により分析する予定。2001年8月~2002年3月まで滞在。スポンサーは日本研究センターです。

教員・学生向け奨学金等

教員向け

2001~2002年度の教員対象研究奨励金の受給者が決まりました。個人およびグループ研究用奨励金は、日本社会・日本文化の何らかの側面を対象とする研究に与えられます。以下は受給者とそれぞれの研究テーマです。エドワード・チェン(心理学助教授)「日米の自己の向上と自己批判—続編—」、趙 恩秀(アジア言

語文化助教授)「日本仏教における明恵と元曉の影響について」、カール・E・シユナイター(ロースクール教授)「弁護士への道—法曹界の人材確保について—」、ロバート・シャープ(仏教学準教授)「生ける肖像—寺院文脈における日本の仏教イコナー」、吉浜美恵子(社会福祉助教授)「日本の女性に見る家庭内暴力と健康の比較研究」、ケン・イトウ(アジア言語文化準教授)「明治の通俗小説における家族(1895~1905)」

学生向け

外国語地域研究(FLAS)奨学金 締切日
2002年2月1日。詳しくは
<http://www.umich.edu/~iinet/flas> まで。

日本研究センター学生旅費補助 日本研究
に関連した学会に出席するための旅費
補助。申請締切日は、毎年1月30日、
1月31日、3月31日の3回です。

文部省奨学金 日本の文部科学文化省が
日本留学を希望する外国人に与える奨学
金。応募希望者は、最寄りの日本国総領事
館、又はミシガン大学日本研究センター
に申請書類と関連情報を請求すること。
面接と日本語の試験があります。在デト
ロイト日本国総領事館は、電話313-567-
0120、ファックス313-567-0274です。

これ以外にも、CJS 奨学金・奨励金のウエ
ブページ<http://www.umich.edu/~iinet/cjs>
に情報が載っています。

学会

「ロッキー山脈 学際的歴史学学会」
2001年9月14日~15日
コロラド大学ボルダー校 歴史学部
www.colorado.edu/Conferences/RMIHC

「近世とそれ以前における熟練者とノウ
ハウについて」
2001年10月6日~7日
ミシガン大学国際問題研究所主催
ワークショップ
問い合わせ先 annrenee@umich.edu

第2回大学院生学会「アジアの協調」
2001年10月19日~20日
トロント大学 東アジア研究学部
www.chass.utoronto.ca/easgsc

第12回「アジアビジネス会議」
2002年2月7日~8日
ミシガン大学 ビジネススクール
www.umich.edu/~asiabus/
問い合わせ先 pangs@umich.edu

アジア学会(AAS)年次総会
2002年4月4日~7日
ワシントンDC、
ウォードマンパークホテル
www.aasianst.org/annmtg.htm

「時間と空間を通じた黒人とアジア人の
出会い国際会議」
2002年4月12日~14日
ボストン大学
問い合わせ先 lokenkim@bu.edu
学会等に関する更に詳しい情報は、CJS
の学会関連ページ
[http://www.umich.edu/~iinet/cjs/events/
conferences/html](http://www.umich.edu/~iinet/cjs/events/conferences/html)

をご覧ください。

お知らせ

在デトロイト日本国総領事館に
新総領事着任

2000年11月からデトロイトの総領事館
に、伊藤誠新総領事が着任しました。伊
藤氏は名古屋大卒業後、1972年外務省入
省。カナダ、バングラデシュ、ブラジル、
ロサンゼルスに赴任。今回のデトロイ
ト赴任前は、東京の国際交流基金総務部
長の任にありました。

デトロイト日本商工会に新事務局長

デトロイト日本商工会(JBSD)は、デト
ロイト地域の日系企業にとって商工会議
所の役割を果たしています。2001年5
月、新たに中浜昭太郎氏が事務局長の職
に就きました。同氏は、文化的なプログ
ラムを増やし、この地域の日本人がアメ
リカ生活にいち早く順応できるようにす
ることを目標にしています。前職は三
井物産Southfield 営業所の駐在員(7年
間)。三井物産には合計23年間勤務しま
した。

ミシガン大アジア図書館旅費補助金
(トラベル grant)

他大学の日本研究者が本学アジア図書館
を利用する際の、旅費、宿泊費、食事代、
コピー代に対し、最高\$500までの旅費
補助があります(期間 2001年7月1日~
2002年6月30日)。アジア図書館のコレ
クションは日中韓図書合わせて567,388
冊、うち日本コレクションは、図書
250,039冊、マイクロフィルムが9,670リ
ールと7,323シートです。最近加わったデ
ジタルリソースとしては、日本の日外デー
タベースへのオンラインアクセスがあり
ます。アジア図書館は人文科学系、社会
科学系に強く、両分野を満遍なくカバー
しています。映画、女性学もコレクショ
ンを増やしています。アジア図書館に関
する情報は

<http://asia.lib.umich.edu/index.htm>

又はアシスタント(電話734-764-0406)
にお問い合わせ下さい。

補助金希望者はその旨を記した手紙に、
研究テーマの簡単な紹介とアジア図書館
利用希望の理由(250語以内)を添えて、
センターへ申請して下さい。尚、最新の
履歴書と旅費見積り、旅行予定日も記し
て添付して下さい。

Eメールによる申請は umcjs@umich.edu
宛に、郵便の場合は

Asia Library Travel Grants
Center for Japanese Studies
Suite 3603, 1080 S. University
The University of Michigan
Ann Arbor, MI 48109-1106

宛にどうぞ。

近況をお知らせ下さい

日本研究センターでは全ての教職員、関
係者、学生、卒業生の皆さんから近況を
募集しています。またこのニュースレ
ターが転送されて届いた方、引っ越した
方、引っ越す予定である方、定期的にこ
のニュースレターが届かない方は、Amy
Carey 宛 (umcjs@umich.edu) にご連絡下
さい。

日本研究センター
2001 年秋学期催し物カレンダー

9月

- 2日 ミシガン大学国際研究所オリエンテーション 1636 SSWB、午前8時から。
10日 特別催し物 日米協会「A50」対日講和条約50周年記念行事。ILO ジェンダー特別アドバイザー駐日代表 堀内光子、防衛大教授 武田康裕、(有)阿部哲夫事務所代表取締役 阿部哲夫の各氏が参加。ミシガンリーグ、Koessler Roomにて午後1時から。
27日 講演 「世代間の再生産か? - 日本における社会移動 -」 石田浩 (社会学、東京大)
同日 ジョーダン・サンド トヨタ招聘客員教授レセプション 於CJSオフィス前 (3603 SSWB)

10月

- 4日 講演 「国境内の医師団 - 植民地時代の台湾におけるその職業、民族性と近代化 -」 略 明正 (カリフォルニア大デービス校社会学部) ("Doctors Within Borders: Profession, Ethnicity, and Modernity in Colonial Taiwan," Ming-Cheng Lo)
5日 映画 『丹下左膳余話百万両の壺』 山中貞雄監督、1935年 白黒86分。
6-7日 ワークショップ 「近世とそれ以前における熟練者とノウハウについて」 SSWB1644号室、正午~午後6時。
11日 講演 「日本における家族支援 - ジェンダーと世代間関係の視点から -」 白波瀬 佐和子 (国立社会保障・人口問題研究所)
12日 映画 『御法度』 大島渚監督 1999年 カラー100分。成人向。
13日 美術館展示オープン 『淡路島のどんざ展』 大学美術館 (2002年1月6日まで)
14日 講演 シャロン・タケダ (ロサンジェルス郡美術館 衣裳・布地部長、シニアキュレーター) 大学美術館にて午後3時から。一般に公開。
18日 講演 「中将姫伝説と女人往生」 ハンク・グラスマン (仏教研究所) ("The Chūjōhime Legend and Women's Salvation," Hank Glassman)
19日 映画 『東京流れ者』 鈴木清順監督、1966年 カラー83分。成人向。
25日 講演 「今後の日本経済」 伊藤誠 (在デトロイト日本国総領事)
26日 映画 『四畳半襖の裏張り』 神代辰巳監督、1973年 白黒120分。成人向。
28日 尺八リサイタル 大学美術館日本ギャラリー 午後1時から。
同日 茶道実演披露 大学美術館日本ギャラリー 午後2時から。
同日 ドーリス・スローン追悼記念講演 「日本の工芸伝統の変遷」 ロバート・シンガー (ロサンジェルス郡美術館 日本美術部長、キュレーター) ("Continuity and Change in Japanese Craft Traditions," Robert Singer) 大学美術館にて午後3時から。

11月

- 2日 パネルディスカッション 「帝国主義と中産階級」 特別参加ピーター・ドウス (スタンフォード大歴史学部教授、AAS 前会長)。ミシガンリーグ、Michigan Room にて。午後3時から。
同日 映画『1000年刻みの日時計 - 牧野村物語』小川伸介監督、1986年 カラー222分。
8日 講演「アイヌ - 人類学の神秘的な旅 -」 ウィリアム・フィッツヒュー (スミスソニアン博物館北極圏研究所、人類学部門兼任) ("Ainu: an Anthropological Mystery Tour," William Fitzhugh)
9日 映画『彼岸花』小津安二郎監督、1958年 カラー118分。
15日 講演「国民国家と帝国のジェンダー化された紐帯 - 朝鮮人兵士、妻、母親、孤児 -」 タカシ・フジタニ (日本近代史、カリフォルニア大学サンディエゴ校) ("The Gendered Bonds of Nation and Empire: Late Colonial Japanese Discourses on Korean Soldiers, Wives, Mothers, and Orphans," Takashi Fujitani)
16日 映画『にっぽん昆虫記』今村昌平監督、1963年 カラー123分。
28日 歌舞伎舞踊公演 花柳伊三郎、大学美術館、午後7:30。
29日 講演「室生寺の五重塔」 シェリー・ファウラー (美術史、カンザス大学) ("Five Stories of Murōji Pagoda," Sherry Fowler)
30日 映画『その男、凶暴につき』北野武監督、1989年 カラー98分。成人向。

12月

- 1日 ワークショップ 「東アジアに関するグローバル教育ワークショップ」(文学美術分野における教員研修)
7日 映画『実録阿部定』田中登監督、1975年 カラー80分。成人向。

日本研究センター
2002 年冬学期催し物カレンダー

1月

- 11-13日 セミナー「今日の日本人の生活」 1) 若者と職業、2) 中年女性と介護、3) 「新」高齢者、という急速に変化する現代社会の3つの局面を分析する。
- 17日 講演「山を越して描く—文晁・広重・富士山と東海道」フランク・チャンス(美術史学部客員教授) (“Passing and Painting the Mountain: Tani Bunchō, Andō Hiroshige, Mt. Fuji and the Tōkaidō Highway,” Frank L. Chance)
- 24日 講演「バンガローと日本の文化住宅—西洋化と帝国主義の世界秩序」ジョーダン・サンド(トヨタ招聘客員教授) (“Bungalows and Culture Houses in Japan: Westernization and the Imperial World Order” Jordan Sand)
- 25日 ロバート・L・ダンリー追悼記念講演「リアリズムを超えて—フィクション、映画、『近代日本』」ポール・アンダラー(コロンビア大学東アジア言語文化学部教授) (“Beyond Realism: Fiction, Film, and ‘Modern Japan’,” Paul Anderer) ハッチャー大学院図書館806号室、午後4時から。
- 31日 講演「宮廷人の日記に見る政治的側面と文学的側面—藤原忠平『貞信公記』—」エドワード・ケーメンズ(東アジア言語文化、イェール大学) (“The Political and the Literary in a Courtier Journal: Fujiwara no Tadahira’s ‘Teishinkōki’,” Edward Kamens)

2月

- 7日 講演「安全を書き変える東アジアの女性たち」マーゴ・オカザワ・レイ(社会福祉学、サンフランシスコ州立大) (“Women Redefining Security in East Asia,” Margo Okazawa-Rey)
- 7-8日 学会 第12回「アジアビジネス会議」於ミシガン大ビジネススクール。詳細は www.umich.edu/~asiabus またはメールで pangs@umich.edu 宛まで。
- 8-9日 学会 第11回「東アジア専攻大学院生のための学会」於コロンビア大。詳細確認は <http://www.columbia.edu/cu/ealac/gradconf> で。または Thomas Mullaney か Enhua Zhang 宛のメールを asiagradcon@columbia.edu まで。
- 14日 講演「現代日本社会の政治環境、聾哑運動とデフ・アイデンティティ」中村かれん(人類学、マッカレスター大) (“Deaf Minority Identities, Social Movements, and State Power in Modern Japan,” Karen Nakamura)
- 21日 講演「闇の谷の情景—大戦中の日本の環境史に向けて—」ウィリアム・M・ツツイ(歴史、カンザス大) (“Landscapes in the Dark Valley: Toward an Environmental History of Wartime Japan,” William M. Tsutsui)
- 23日 学会 第5回「大学院生のための学会」ハーバード大学東亜学会主催。詳細は www.heasconference.org で確認を。又は info@heasconference.org までメールで。
- 24-26日 第5回「リーマンニューファクチャリング研修の旅」(ケンタッキー州トヨタ自動車工場、サプライヤー企業での実地研修) 詳しくは jtmp@umich.edu まで。

3月

- 7日 講演「支配型の女性—日本文学に見る声色の操作—」リンダ・チャンス(日本語日文学、ペンシルバニア大学) (“Possessing Women: Acts of Impersonation in Japanese Literature,” Linda Chance)
- 14日 講演「支配の夢、又は欲望の幻影—横光利一の『上海』について—」デニス・ワッシュバーン(日本研究、ダートマス大) (“Visions of Dominance/Phantoms of Desire: Observations on Yokomitsu Riichi’s ‘Shanghai’,” Dennis Washburn)
- 16日 学会 第4回「日本研究専攻大学院生学会」於ハーバード大学。発表希望者は1頁以内の要約を2月1日までに送付のこと。詳細の問い合わせはメールで eodwyer@fas.harvard.edu まで。
- 21日 講演「冷戦の記憶喪失の再生産—広島、慰安婦、そしてアメリカの報復の『新たなる戦い』—」リサ・ヨネヤマ(日本研究・文化研究、カリフォルニア大サンディエゴ校) (“Re-manufacturing Cold War Amnesia: Hiroshima, Comfort Women, and America’s ‘New War’ of Retaliation,” Lisa Yoneyama)
- 28日 講演「日系移民史と日本の領土拡張論者の正統派」エイイチロウ・アズマ(歴史、ペンシルバニア大) (“Japanese Immigrant History and Japan’s Expansionist Orthodoxy,” Eiichiro Azuma)

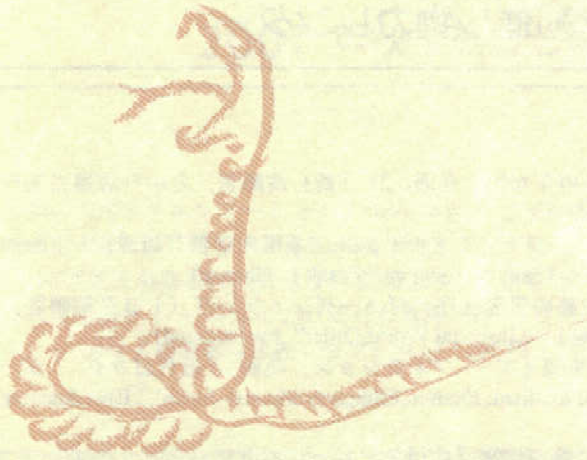
4月

- 4-7日 学会「アジア学会(AAS)年次総会」於ワシントンDC、ウォードマンパークホテル。詳細は www.aasianst.org/annmtg.htm。
- 11-14日 ノースウェスタン大・プリンストン大共同ワークショップ「比較的視点から見た Embedded Enterprise」於プリンストン大学。
- 12-14日 学会「時間と空間を通じた黒人とアジア人の出会い国際会議」於ボストン大学。詳細問い合わせは lokenkim@bu.edu まで。

6月

- 6-9日 学会 第15回「日本ビジネス学会年次総会」ミズーリ大学セントルイス校主催、於ミズーリ州セントルイス。詳細は www.abjs.org まで。
- 22-23日 学会「日本アジア研究学会(ASCI)」於上智大学市ヶ谷キャンパス。詳細は <http://www.meijigakuin.ac.jp/~kokusai/ascj/>、又は ascj@max.icu.ac.jp 宛メールにて。

講演は注記のない限り全て、SSWB 1636号室にて正午から。尚、講演会の一部米国教育省タイトルVI研究助成金により実現しています。また、最新のインフォメーションはCJSのイベントカレンダー (<http://www.umich.edu/~iinet/cjs/events/CJSevents.html>) をご覧下さい。



Regents of the University of Michigan: David A. Brandon, Laurence B. Deitch, Bloomfield Hills; Daniel D. Horning, Grand Haven; Olivia P. Maynard, Goodrich; Rebecca McGowan Ann Arbor; Andrea Fischer Newman, Ann Arbor; S. Martin Taylor, Grosse Pointe Farms; Katherine E. White, Ann Arbor; Lee C. Bollinger (ex officio)

The University of Michigan, as an equal opportunity/affirmative action employer, complies with all applicable federal and state laws regarding nondiscrimination and affirmative action, including Title IX of the Education Amendments of 1972 and Section 504 of the Rehabilitation Act of 1973. The University of Michigan is committed to a policy of nondiscrimination and equal opportunity for all persons regardless of race, sex, color, religion, creed, national origin or ancestry, age, marital status, sexual orientation, disability, or Vietnam-era veteran status in employment, educational programs and activities, and admissions. Inquiries or complaints may be addressed to the University's Director of Affirmative Action and Title IX/Section 504 Coordinator, 4005 Wolverine Tower, Ann Arbor, Michigan 48109-1281, (734) 763-0235, TDD (734) 647-1388. For other University of Michigan information call (734) 764-1817.



所長： 殿村ひとみ
プログラム・アソシエート： エイミー・キャリー
アドミニストラティブ・アシスタント：
深澤ゆり
事務補佐： アーリーン・ウィリアムズ
学生アシスタント： バイオラ・チェン
ジェニファー・チョン

出版会
総編集長： ブルース・ウィロビー
副編集長： ロバート・モーリー

デザイン・イラスト・レイアウト： S²デザイン

翻訳： 渡辺 康雄

Center for Japanese Studies
University of Michigan
Suite 3603, 1080 S. University
Ann Arbor, MI 48109-1106

電話： 734-764-6307
ファックス： 734-936-2948

Eメール： umcjs@umich.edu
ウェブサイト： <http://www.umich.edu/~iinet/cjs>

Center for Japanese Studies

University of Michigan
Suite 3603, 1080 S. University
Ann Arbor, MI 48109-1106